

令和 7 年度瑞穂町図書館協議会視察研修 報告書

研修概要

- 日 時 令和 7 年 11 月 27 日 (木) 13:30～16:10
- 場 所 小千谷市ひと・まち・文化共創拠点ホント力。
- 参加者 図書館協議会 5 人
 - (関谷会長、高島副会長、笹井委員、吉良委員、関谷 (初) 委員)
 - 瑞穂町図書館 1 人 (西村係長)
- 担当者 小千谷市ひと・まち・文化共創拠点ホント力。
 - 施設長 田中氏、共創推進係主幹 土田氏
- 概 要 運営形態：直営 (カフェ以外)
 - 総事業費：60 億
 - うち 1/2 は国土交通省補助 (コンパクトシティ形成支援)
 - 蔵書数：開架 10 万点、閉架 5 万点 (概数)
- 内 容
 - 100 年あった市民病院の跡地利用で R1～R6 にまたがる事業
 - 中心市街地の活性化のため、図書館を核とした複合施設
 - 開館して 1 年 2 か月、来館者は延べ 40 万人超え、市民の日常の場になっている
 - 2025 年グッドデザインベスト 100
 - ⇒サウンディング、リビングラボ (ワークショップ) 等が評価
 - 様々な建築 (フロート、アンカー、ルーフ) の組み合わせにより、多様な過ごし方を実現
 - NDC + 一部テーマ配架
 - 実空間とデジタル空間の融合
 - ⇒顔認証登録(カードと併用)、対面貸出なし、コトノハ

- 機能融合
 - 町の情報拠点としての機能
 - 主体的な関わり・取組 = 楽しい・満足感
 - ⇒ この経験がある人を増やす場としての機能
- オープンな公共空間を維持するために日々試行錯誤している
- 瑞穂町との共通点
 - 禁止事項の禁止
 - 会話OK
 - 飲食可（エリア分けあり）
- 質疑
 - 成長過渡期の利用者への対応で苦慮していることはあるか
 - ⇒ 年代に関わらず人が多く出入りするといろいろある
 - 高齢者増加への対応、
 - ⇒ 山間部の独居高齢者は孤立しやすいので、デジタルを活用したい
 - 不登校児等に対する図書館の役割
 - ⇒ 市の施策（学びの多様化学校）との連携、学校に行けなくても来館できる子もいる



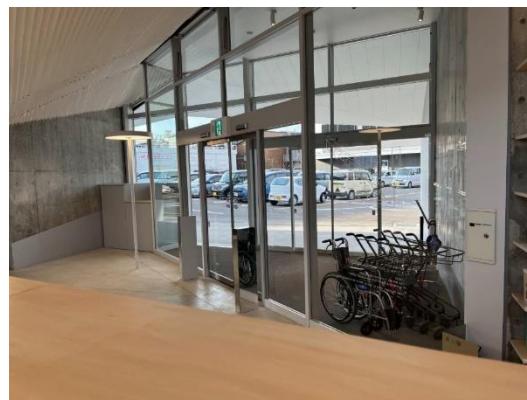
事業説明



施設見学



正面エントランス



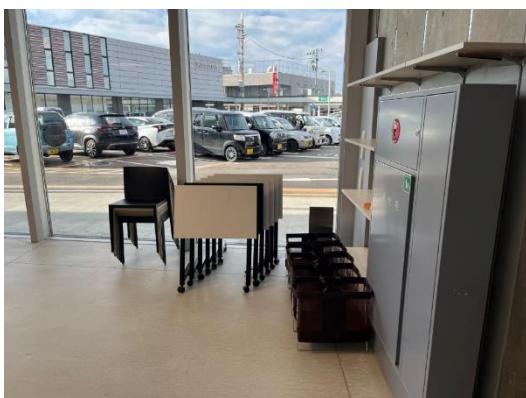
別の入口 (BDS)



ホント力。宣言



書架を含む什器は可動式



自由に使える什器の予備がある



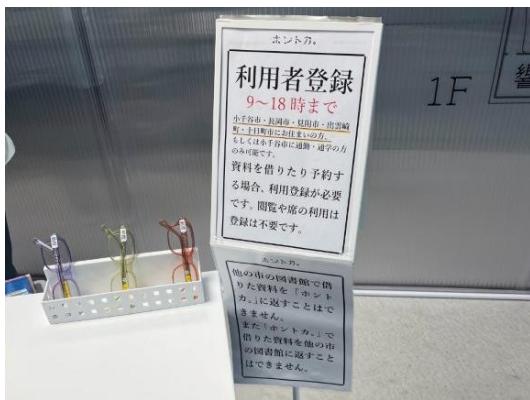
飲食ルールの掲出



郷土資料エリアには民具も展示



知アンカー (郷土の偉人を顕彰)



利用者登録の案内



顔認証システム



OPAC (蔵書検索端末)



自動貸出・返却機



館内の様子



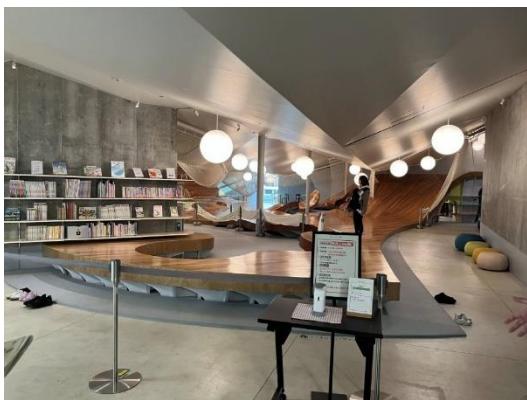
開架エリアで本の修理



テーマ配架のラベル



集合写真



屋内広場（小学生以下が遊べる）



響アンカー（スタジオ）



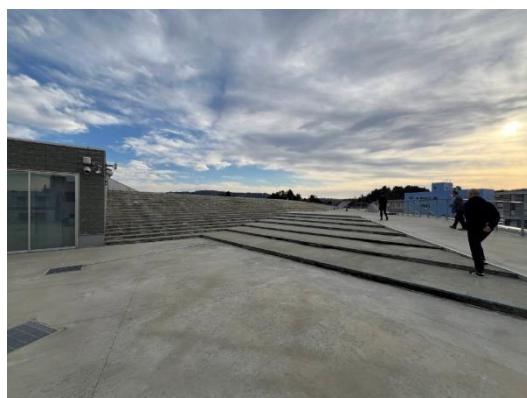
創アンカー（若者の居場所）



発アンカー（デジタルラボ）



閉架書庫（手動集密書架）



屋上（冬は閉鎖）